



1991



六甲のサッカー部に入部して、はや2年5ヵ月ほどだった。僕はこの間主将としてチームメイトとサッカーについていろいろ話し合ってきた。そして、「神戸に六甲あり」といわせるようなチームになるため、週に3日という少ない練習時間に集中してしんどく苦しい練習をした。こうして、どの大会でもベスト16以上に入れるようになった。こうした結果をもたらして下さったのが、OBや高校生の先輩方として、佃先生や、市川先生でした。先生方には、54期を強くするため、すばらしい

ご指導をいただきました。ときには、我々の事を思う思いやりからか、愛の鞭をくださいました。そして、かげで私たちを支えて下さったのが、先輩方でありました。先輩方は練習の間や、紅白戦のあとなどに、とても参考になる事を、たくさん私たちに、教えて下さいました。OBの方々には、私たちのために、部屋のイスや棚、籠などを買ってそろえて下さいました。このような先輩方の努力が、好成績を収めることができる原因だと思います。

サッカー部創立50年ということは、それまでに多くの先輩方が創り上げてきて50年という意味であるから、そのことを忘れずに日々練習を行い、先輩方にも負けないほどの強いチームになるように努力していきたい。そして、54期のサッカー部員も、六甲生サッカー部の一員として、このすばらしい伝統を守っていききたいと思う。

[浦田 将治]